

1939（昭和14）年～

1. 経歴・狭山市との関わり

男子3人の三男として、新宿区四谷に生まれる。父は軍服縫製会社の経営者で戦争中とはいえ豊かな暮らしだったという。1945（昭和20）年5歳の時、父のふる里の富山県に家族4人で縁故疎開。同年6月、父が沖縄で戦死。母子家庭となった一家は、天国から地獄の暮らしとなり、3人の子供を抱えての筆舌に尽くしがたい母の努力は、涙無くしては語れない。小学3年生の時、手塚治虫の「新宝島」に夢中になり、漫画家になる夢が芽生えた。高校卒業後、鉄工所での肉体労働の傍ら漫画家を目指して紆余曲折はあったものの24歳の時、漫画家デビューを果たす。しかし、力不足を痛感して25歳の時、漫画家を諦めたという。



その頃、東映動画でアニメーターを務めていた3歳上の兄から、アニメーターになるよう勧められる。しかし当時、鉄腕アトムなどで有名だった虫プロダクションは、モンキー・パンチ氏も入社に失敗しており、自分などはとても無理だと思っていたが、幸運な事に手塚治虫の推薦で『ジャングル大帝』の第3話からアニメーターデビューを果たす。その後、1973（昭和48）年、東京都大田区から狭山市に転居。令和3年には、狭山市立博物館で「金山明博 遊画展」を開催した。

2. 主な業績



© 高森朝雄・ちばてつや／講談社・TMS

①主なアニメ作品

◎虫プロダクション

『ジャングル大帝』（作画の一人）

『わんぱく探偵団』（作画監督）

『あしたのジョー』（作画監督）

◎サンライズスタジオ

『コンバトラーV』（作画監督・ゲストキャラクターデザイン）

『ボルテスV（ファイブ）』（作画監督・キャラクターデザイン）

『闘将ダイモス』（作画監督・キャラクターデザイン）

『仮面忍者赤影』『劇場版 あしたのジョー』（作画監督）

②主な漫画作品

・1962年 『ドクタータケル』（秋田書店） 『少年プロレス王』（秋田書店）

『地球探偵バツパ』（少年キング）

・1960年～63年 『秘密戦艦男爵艇』（講談社）

・1982年 「スーパードッグ幻」（東京新聞連載）

③受賞歴

・2004年 トムスエンタテインメント大賞 短編映画『落石』（原作・監督・作画監督）

・2007年 ウラジオストック協会奨励賞（ウラジオストック協会）

・2023年 アニメ功労部門顕彰者（東京アニメアワードフェスティバル）

3. 特筆

宇宙の侵略者から地球を守る役割を与えられた『ボルテスV』は、約40年前のマルコス政権時代にフィリピンに輸出される。独裁体制が敷かれた中であって視聴率は高く、58%にも及んだといわれる。その後、政権は1986（昭和61）年2月の大統領選挙をきっかけに崩壊。現在、『ボルテスV』のテーマ曲は、軍隊歌になっていると金山氏は語った。

〈インタビュー〉 金山明博氏